

産官学の フューチャープラン

広島県

第14回

38、☎0824-63-5331)は、センサーのコアとなる薄膜技術を独自に開発し、ディーゼル車向けの尿素品質センサー、オイル品質センサー、

サンエー

オンリーワンの尿素品質センサー

環境応用製品を展開し夢は100億円

などをコアに発展してきた。いわばオンリーワン技術を持つ強みを活かして、

力事業にしてきたが、現在は当社独自の

連の特許権も取得し、新たな展開の基礎を固めてきた。15年8月にクリヤマジャパン(株)の出資を受けてグループ入りするの

サンエーの21年12月期の売り上げは約50億円となっている。従業員は165人を擁しており、本社のある三次工場、西三次工場、研究開発をベースとする関東事業所の3カ所を持ち、さらなる拡大を狙っている。中長期的には売り上げを100億円超にするという夢を持つっており、得意とするセンサーの技術にさらなる磨きをかけていく構えなのである。



また、複合センサーの世界にも照準を合わせている。

山岸氏(左)と吉住氏

「10年には燃料識別センサーを開発した。これは燃料の不純物検出、燃料の多様化に対応したものである。当社のセンサーは、人間の指の1万倍以上の感度で熱伝達率を

特別編集委員 泉合彦

金属鋳業にて、薄膜センサー技術の開発を行い、2003年にサンエー社と共同で、世界で初めて尿素品質センサーを開発し、09年に事業とともにサンエーに入社した。

「32・5%」・異物混入の計測を実現する。車の走行中や大きな振動など厳しい動作環境でも正確に出力するため、常時監視が可能となる。

野では、化石燃料を用いるエンジンは当面使用され続けると思っている。地球温暖化対策として生物資源燃料や化学合成燃料などが広く利用されることになり、尿素品質センサー応用製品、燃料識別技術はますます必要とされると考えている。当社は、この機会を積極的なビジネスチャンスと捉え、国内異業種各社と協業し事業拡大を図りたい(吉住社長)。

「現在のサンエーは、ひろしまイノベーション推進機構から出資を受けて再生し、かつ三井金属鋳業から尿素センサー関

後、クリヤマジャパンに入社し15年にサンエーに出向、現在は社長としてサンエーの事業活動の先

測る小型の薄膜デバイスを作り上げたものであり、この技術は色々展開できるともいえる。この技術を応用し、地球温暖化防止に貢献できる新規製品を継続的に開発していきたいと考えている(山岸会長)。

同社の製造プロセスは、長年培った繊細かつ習熟した加工技術を用いて少量多品種生産を実現している。また、大量・高品質生産に対しては、全自動化ロボットライン

を導入し、増大する顧客ニーズに応えている。もちろん品質管理も万全であり、常に出荷不良ゼロを目指している。また、設計開発についても、構造設計、回路設計、ソフトウェア開発、装置設計などをすべて社内で行っており、耐久性試験も自前でやっている。「当社およびクリヤマグループが得意とする建